

八〇 第三十圖ハ前表ニ基キテ、試ミニ調製セル、明治三十七年中ノ臺灣ノ地震分布圖ナルガ、其ノ材料モ僅ニ一ケ年ノ報告ニ基クモノナレバ、極メテ大體ノ結果ニシテ今後數年ヲ經テ再ビ分布圖ヲ調製スレバ、或ハ多少顯著ナル點ニ於テ相違ヲ來タスマモ知ルベカラズト雖トモ、今日迄ノ所ニテハ此ノ外ニ材料トスベキモノ無ケレバ、暫ク第三十圖ニ依ルニ、本島中地震ヲ多ク感ズル主ナル地方ハ左ノ如シ

(甲) 社頭、斗六附近ヨリ南方蕃薯寮附近ニ亘ル地帯

(乙) 宜蘭附近

(丙) 花蓮港附近ヨリ成廣澳附近ニ至ル東海岸ノ地帯

(丁) 島ノ極南端ナル鶯鑾鼻附近ノ小局部

第三十圖ハ地震ヲ感ズル多寡ニ依リテ造レル圖ナレバ、必ズシモ震原地點ノ分布ヲ示スモノニ非レドモ、大體ニ於テ(甲)ハ本島南西部ニ於ケル地震ノ發起帶ヲ示スモノナルベシ(次編地震震動區域圖ノ條參照)

(乙)、(丙)、(丁)ノ三地方ニ至リテハ、恐クハ震原地自己ノ位置ヲ示スニ非ズシテ、單ニ多數地震ノ震動區域ヲ示スモノナルガ如シ、即チ此等ノ地方ヲ震動スル地震ノ起原ハ、東方ノ海底ニ存スルモノナルベシ、且ツ(乙)、(丙)、(丁)ハ相連結スル一帯ヲ成スモノナルベシ、之ニ依リテ判スルニ東方海

中ノ震原地帯ハ大體島ノ長軸ニ並行スルモノナルベシ、而シテ又(甲)地帯モ粗ボ北東北、南西南ノ方向ヲ有シテ、島ノ長軸ト平行スルノミナラズ、(甲)地帯ノ軸ヲ北東北ノ方向ニ延長スレバ、恰モ樹圮林、臺北附近並ニ島ノ西北端、白沙岬附近ノ小局部地震中心地ヲ通過スルコトナル

第八編 明治三十七中地震ノ分布(續)

顯著地震ノ震動區域

八一 第三十一圖乃至第三十七圖ハ、附錄第二ニ基キテ調製セル、明治三十七年中ノ顯著ナル地震ノ震動區域ノ略圖ニシテ、左ノ如シ(明治三十七年兩回大震ノ震動區域圖ニ就キテハ後編ニ別ニ論述ス)

- (1) 明治三十七年 五月 二日午後五時ノ輕震
- (2) 同 九月廿八日午後一時ノ強震
- (3) 同 十一月 六日午前六時ノ輕震
- (4) 同 十一月廿八日午前八時ノ微震
- (5) 同 十一月廿二日午後二時ノ輕震
- (6) 同 十一月廿九日午後九時ノ輕震
- (7) 同 九月 七日午後九時ノ地震

以上七回地震中、(1)、(2)、(3)、(4)、(5)、(6)ノ六回ハ、皆ナ本島南西部ノ陸地内ニ發震セリ、(7)ノミハ少シク趣ヲ異ニシ、廣キ地震ナルガ、判然タル震動區域圖ヲ畫スルヲ得ザルヲ以テ、暫ク各地ニ於ケル震度ヲ示スノミニ止メ置キタリ

(1)ヨリ(5)迄ノ地震中、最初ノ三回ハ稍々大ニシテ、後ノ三回ハ局部微震ナリ、而シテ(1)ハ明治三十七年四月二十四日激震ノ餘震ト見做スヲ得ベク、(3)、(4)、(5)、(6)ノ四回ハ皆ナ同年十一月六日激震ノ餘震ナリ、(2)ノミハ餘震ト見做シ能ハザルニ似タリ

(1)、(2)、(3)ノ三個地震ノ震動區域圖ニ於テ顯著ナル事實ハ震央帶ガ陸地内ニアリテ、其ノ中央軸、即チ延長ノ方向ガ島ノ長軸ニ概略並行セルコトナリ(第十三編兩回激震ノ區域圖ニ關スルノ條參照)

第九編 明治三十七年十一月六日

激震ニ關スル各地ヨリノ

報告

八二 明治三十七年十一月六日激震ニ關スル、各地ヨリノ報告摘要ヲ、次ノ如ク順次ニ記載スベシ

(甲) 臺北測候所ニテ蒐集セル分ヨリ拔萃

(乙) 斗六廳管下ノ各支廳ヨリ同廳ニ差シ出セル報告

(丙) 震災ニ關スル鐵道部長ヨリノ報告

(丁) 本委員ガ巡回中、直接ニ聞キ得タルコト、及ビ本

委員ガ感シタル地震ノ記事等

八三 (甲) 臺北測候所ニテ蒐集セル分ヨリ拔萃

〔彰化廳〕 器物ノ轉倒ハ洋燈ノミニ止リ其方向ハ南ヨリ北、

……倒壞家屋特ニ官舎ノ玄關倒壞シ其他大破家屋多シ……

〔彰化廳鹿港支廳〕 比較的微震ニシテ何等ノ異狀ヲ呈セズ

〔彰化廳員林〕 ……南方ヨリ震動シ來リ……上下左右ニ震動

シ強震ナリ

〔彰化廳北斗〕 ……單ニ座リ惡キ器物ノ轉倒セシニ止マリ、

又粗造ノ壁ニ龜裂ヲ生シ、……地震ハ急激ニシテ震動ハ南東

ト推測セラル

〔南投廳〕 ……塗壁ノ脆軟ナル部分龜裂シ、吊垂シタルモノ

動搖シ敗屋ノ瓦幾分ノ墜落アリシノミ、方向ハ西南ヨリ北東

ニ進ミタリト認ム

〔同草鞋墩支廳〕 瓦葺竹柱ノ朽廢セル住家一軒崩壞セシモ、

間口三間奥行二間半約四坪半ノモノニシテ、價格僅ニ三四

圓、瓦葺ナリシ爲メニ直下ニ崩落シ、竹柱ハ一定ノ方向ナク亂